

## ⑤ 血液疾患になるとどんな症状が出るの？

血液疾患の症状は、3系統の細胞の減少による症状と、疾患特有の症状に分かれます。

### 1) 正常血液が減るために出てくる症状

#### (A) 赤血球の減少（つまり貧血）

：赤血球は身体の隅々まで酸素を運ぶのが役割ですので、これが少なくなると酸欠状態に陥ります。高い山の上に急に登った時（高山病）の症状に似ています。息切れや頭痛、動悸です。



めまい、だるさ、動悸、息切れ



感染に伴う発熱

#### (B) 白血球の減少

：白血球は免疫を司る細胞でした。我々の日常から交番のおまわりさんがいなくなった時を想像すると分かりやすいと思います。秩序が乱れます。身体の中でともに生きていたり、外部から侵入してきたりするバイ菌やカビに対する防御ができませんので、容易に風邪になりやすくなったり、重症肺炎にかかりやすくなったりします。また普段かからないようなウイルス感染症やカビによる肺炎を起こしたりします。

#### (C) 血小板の減少

：血小板は、かさぶたの成分であることから、出血をとめてくれる役割がありました。これが減少しますと出血しやすくなります。採血後にあざ（紫斑：しはんと呼びます）が残ったり、打撲していないのにアザができたり、鼻血や歯茎から出血しやすくなったりします。ひどい場合は脳出血、肺出血、胃出血、腸出血など生命に直結するような出血を起こすことがあります。



出血しやすくなる

### 2) 疾患特有の症状

#### (A) 白血病や悪性リンパ腫などの癌細胞が臓器やリンパ節に侵入したことによる症状

：歯茎の腫れ、リンパの腫れ、咳、浮腫み、黄疸、血尿などです。

#### (B) 血液が壊れる（溶血性貧血）と発熱、黄疸、血尿が出やすくなります。

#### (C) 多発性骨髄腫では、骨が脆くなりやすく、骨折しやすくなります。